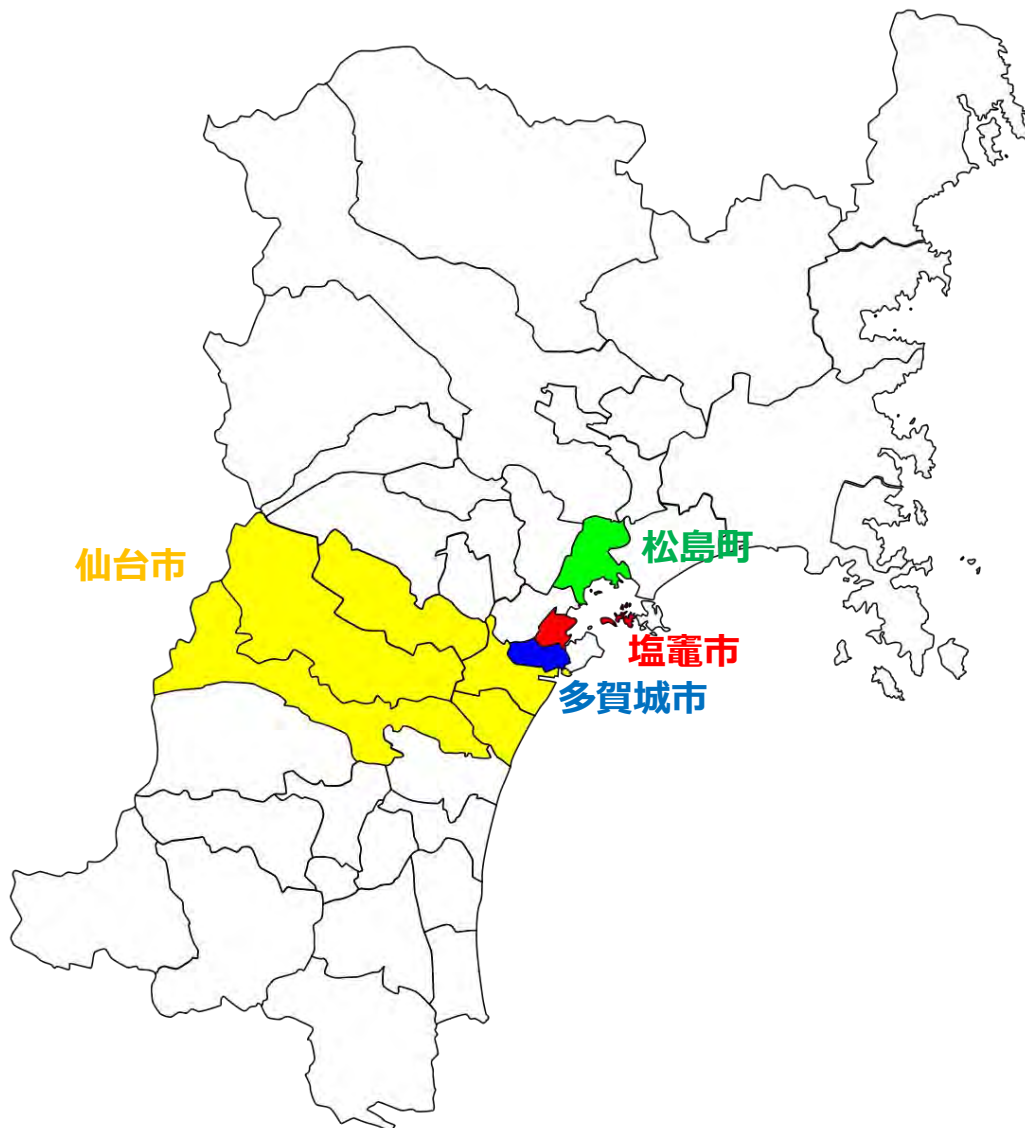


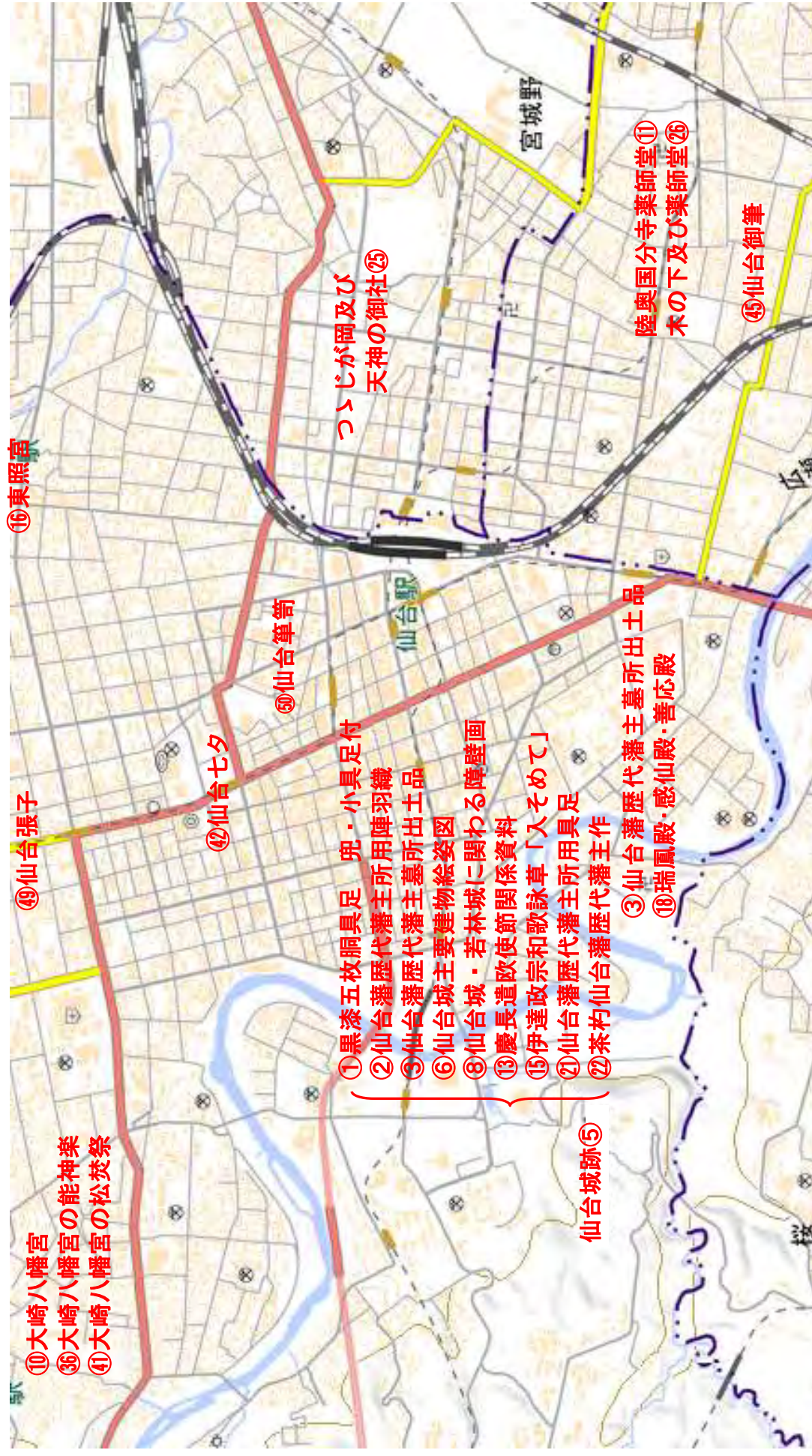
① 申請者	◎宮城県（仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
政宗が育んだ“伊達”な文化			
④ ストーリーの概要（２００字程度）			
仙台藩を築いた伊達政宗は、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが、時代を代表する文化人でもあり、文化的にも上方に負けない気概で、自らの“都”仙台を創りあげようとした。 政宗は、その気概をもって、古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で、伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、政宗の個性ともいべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、これまでにない新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。 そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、そして武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成を加えていった。			

市町村の位置図（地図等）



宮城県

仙台市中心部



塩竈市拡大図





多賀城市拡大図



松島町拡大図

仙台市郊外拡大図



ストーリー

◎伊達政宗と仙台藩の文化

仙台藩を築いた伊達政宗は、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところであるが、時代を代表する文化人でもあり、文化的にも上方に負けない気概で、自らの“都”仙台を創りあげようとした。政宗はその気概をもって、古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指す中で、伊達家で育ま



【政宗所用の南蛮服飾
の陣羽織】

れた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、政宗の個性ともいえるべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていった。

そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、そして武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成を加えていった。



【政宗所用と伝えられる黒漆の甲冑】

◎政宗による文化の確立

伊達政宗は、政治の拠点として新たに仙台城を築くにあたり、これまでの伝統を重視する姿勢を見せた。仙台は古代陸奥国府の所在地である宮城郡に位置することもあり、この地の名所・旧跡の再興と再生に力を尽くした。奈良時代の陸奥国分寺跡に薬師堂を建立し、平安時



【政宗が松島に建てた瑞巖寺】

代の坂上田村麻呂ゆかりの、さらには室町時代の奥州探題大崎氏崇敬の大崎八幡宮を仙台に移転させ、鎌倉時代以来陸奥国随

一の名刹と称された松島円福寺を瑞巖円福禅寺として再興した。その際に、畿内から当代一流の技術者を呼び寄せ、手の込んだ彫刻や極彩色からなる装飾性豊かな建造物や、金地に色彩豊かな濃絵で描かれた豪華絢爛な障壁画といった、桃山文化の豪壮華麗な手法を取り入れた。

一方で、伝統的な水墨画の世界も同時に取り入れている点に特徴がある。また具足や衣装などにも、斬新な美意識が徹底されている。

さらに南蛮文化の影響も受け、西洋世界への関心の高まりもみられる。政宗の文化的素養は、和歌や連歌、茶の湯、能楽、香といった伝統的な文化にも発揮された。これらは伊達家伝来の学を通して身につけられ、当代一流の文化人との交流の中で、磨かれていった。

◎政宗以後の文化の広まり

伊達政宗が築き上げた新しい文化は、その後さまざまな方面への広がりを見せ、より一層熟成されていった。その文化は、現在の宮城に暮らす人々の生活の中にも深く根付いている。



【豪華絢爛な桃山建築、大崎八幡宮】



【内部の厨子が豪華な圓通院霊屋】

・時代を越えた広がり

政宗の文化に対する姿勢は、二代忠宗、三代綱宗、四代綱村、五代吉村と、次代の藩主たちにも受け継がれ、さらに深化、発展を遂げていった。忠宗の手による東照宮、瑞鳳殿、圓通院霊屋、綱宗による陽徳院霊屋、綱村から吉村の手による鹽竈神社などの建造物には、政宗の志向した豪華絢爛さがうかがえる。

・全国への広がり

都の文化にあこがれた政宗であるが、それとは反対に都人たちは、古来遠いみちのくをあこがれの地として数多くの歌枕を詠んでいることから、領内にある松島や木の下など宮城郡内の歌枕の地に御仮屋を建て、酒宴を楽しんだ。政宗の歌枕への深い造詣は、忠宗や綱村による、古典の研究や名所旧跡の調査に引き継

がれ、藩を挙げて歌枕の地の再発見と整備、保護に取り組んだ。これらの成果が江戸にも伝わり、松尾芭蕉は歌枕の地を自らの目で確かめようと、松島をはじめ、壺

碑、末の松山、興井、籬島、榴ヶ岡、薬師堂などの歌枕の地を訪れ、その様子を『おくのほそ道』で紹介した。これがさらに大きな影響をおよぼし、仙台藩内の歌枕はますます全国へ広まっていった。

・庶民への広がり

政宗が築き上げた文化は、仙台北城下の町人や職人など幅広い階層の人々に広がっていった。仙台藩とのつながりの深い民俗芸能が、仙台北城下で上演され、藩の保護・制約のもとで演じられた。大崎八幡宮の社人が例祭に行っていた神楽、八幡宮別当が関わって

いた盆の鹿踊・剣舞、正月の城下の賑わいに華を添えた田植踊などの民俗芸能は、旧仙台北城下、及びその近郊の庶民等がその命脈を伝えている。また仙台北城下が最も賑わった東照宮例祭の仙台祭は、伊達政宗をまつる青葉神社の例祭に行われる、仙台・

青葉まつりに受け継がれている。

仙台藩の御用を務めた御職人たちが担っていた工芸品は、仙台北城下の職人に引き継がれ、仙台平や仙台御筆、堤焼、仙台張子、仙台箆笥などへと広がっていき、今日でも伝統工芸品として生き続けている。



【四～五代にわたって建立した鹽竈神社】



【芭蕉の旅の目的地のひとつ松島】



【歌枕「壺碑」としても名高い多賀城碑】



【江戸時代からの伝統工芸品 仙台張子】



【現在にも伝えられる秋保の田植踊】

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
◎伊達政宗と仙台藩の文化				
①	くろうるしごまいどうぐそく かぶと 黒漆五枚胴具足 兜・ こぐそくつき 小具足付 (伊達政宗所用)	国重文	政宗が愛用した具足で、鉄地黒漆塗りの重厚な甲冑、頑丈な筋兜、細く長い弦月形をした金箔押し前立は、政宗が志向した重厚かつ華麗な伊達な文化を端的に表す。	仙台市 仙台市博物館
②	せんだいはんれきだいはんしゅしょう 仙台藩歴代藩主所用 じんばおり 陣羽織	国重文 市有形 (工芸品)	山形文陣羽織は伊達政宗所用で、当時流行の南蛮服飾。水玉模様陣羽織は紫色の地に、五色の丸を配した華やかな意匠。孔雀羽根陣羽織は七代藩主重村所用とされ、孔雀羽根を使用した豪華な陣羽織。	仙台市 仙台市博物館
③	せんだいはんれきだいはんしゅぼしよしゅつどひん 仙台藩歴代藩主墓所出土品	市有形 (工芸品) 未指定	政宗が晩年まで身の回りで愛用していた品々で、欧州産の金製ブローチや当時珍しかった鉛筆等から、教養人政宗の姿がしのばれる。また二代忠宗の武具類、三代綱宗の眼鏡、煙管などがある。	仙台市 仙台市博物館 瑞鳳殿
④	もくぞうだてまさむねいぞう 木造伊達政宗倚像	県有形 (彫刻)	政宗没後 16 年の承応元年 (1652) に制作され、現存する政宗像の中で最も写実的な作品といわれる。弦月形の金の前立を好んだ、独創性を持つ政宗の姿を表している。	松島町 瑞巖寺
◎政宗による文化の確立				
⑤	せんだいじょうあと 仙台城跡	国史跡	伊達氏の居城。政宗は中世霊場である青葉山に所在した寂光寺等の寺院を移転し、広大な本丸を中心とした近世城郭を造営した。また、当時、千代と呼ばれた、この地を仙台に改め、仙台藩における政治、文化の拠点とした。	仙台市 仙台市
⑥	せんだいじょうおよ え どかみやしき 仙台城 及び江戸上屋敷 しゅようたてもえすがたず 主要建物絵姿図	市有形 (歴史資料)	本丸大広間や懸造、御成門等の仙台城の主要な建物が描かれており、仙台藩政にとって重要な建物の様相を具体的にみることができる。	仙台市 仙台市博物館
⑦	せんだいじょうほんまるおおひろましようへきが 仙台城 本丸大広間障壁画 ほうおうず 鳳凰図	県有形 (絵画)	仙台城大広間の中枢を飾った、桃山期狩野派による濃絵。覇気に満ちた華やかな政宗の武将としての精神が表している。	松島町 松島町
⑧	せんだいじょう わかばやしじょう 仙台城・若林城 しょうへきが に関わる障壁画	県有形 (絵画) 市有形	仙台城本丸大広間の扇面図は、銀切箔散地に開いた扇や中開きの扇等、大和絵の雅やかな画題を中心に描いている。また政宗が晩年をおくった若林城の遺品と推定される萩に鹿図・菊花図は、教養人としての政宗を雄弁に物語る。	仙台市 仙台市博物館

⑨	ずいがんじ ごだいどう 瑞巖寺五大堂	国重文	政宗が平安時代に創建された由緒ある堂を再建した。東北地方最古段階の桃山建築で、雄健な彫刻だが素木造の外観、対照的に奇巧をこらした家形厨子は伊達な文化を代表する。	松島町 瑞巖寺
⑩	おおさきはちまんぐう 大崎八幡宮	国宝	政宗による造営。現存最古の権現造りで、総漆塗、極彩色、飾金具による豪華で流麗な桃山様式の世界が広がる。政宗の志向を表わす、伊達な文化を最も代表する建造物。	仙台市 大崎八幡宮
⑪	むつこくぶんじやくしどう 陸奥国分寺薬師堂	国重文	古代以来の伝統ある陸奥国分寺の一角に、政宗が造営。内部の厨子は入母屋造、こけら葺で、壁画や扉は彫刻、金箔、飾金具で極彩色に装飾され、豪華絢爛な伊達な文化を表現する。	仙台市 陸奥国分寺
⑫	ずいがんじ 瑞巖寺 (本堂・庫裡及び廊下 ・障壁画)	国宝	政宗による造営。本堂外観は質素な和様であるが、内部の彫刻・彩色・金具、金地濃彩によって描かれる大小161画の襖絵障壁画は、仙台藩お抱え絵師によって描かれる。庫裡の豪華な妻飾りや廊下の構成美も、豪華絢爛たる伊達な文化の世界を表現している	松島町 瑞巖寺
⑬	けいちようけんおうしせつかんけいしりよう 慶長遣欧使節関係資料	国宝・ユネスコ記憶遺産	政宗がイスパニア・ローマに派遣した使節が持ち帰った資料群。ローマ市民権証書や十字架、支倉常長肖像画等があり、政宗の海外志向を表す。	仙台市 仙台市博物館
⑭	こんよばんこくぜんず 坤輿万国全図	国重文	藩校養賢堂に伝わる世界地図で、藩の天文方が仙台にもたらしたとされる。仙台藩では、養賢堂を中心に海外の学問や文化の探求が盛んであった。	仙台市 宮城県図書館
⑮	伊達政宗和歌詠草 「入そめて」	市有形 (歴史資料)	仙台開府を果たした政宗が、仙台の末永い繁栄を願って、これまでの千代の文字を仙台に改め、千代に限定せずに無限の繁栄を期する、という意味の和歌で、仙台開府頃の政宗の仙台に対する思いを伝える。	仙台市 仙台市博物館
◎政宗以後の文化の広まり				
・時代を越えた広がり				
⑯	とうしょうぐう 東照宮	国重文	二代忠宗による建立。漆塗、金箔、七宝の金具等で装飾される。内陣も絢爛たる彫刻や飾金具、彩色が施された厨子が安置される。	仙台市 東照宮
⑰	きようがみねだてけぼしよ 経ヶ峯伊達家墓所 ずいほうでん かんせん でん ぜん のう でん 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿 (再建)	市史跡	初代政宗、二代忠宗、三代綱宗の霊屋。瑞鳳殿は伊達の文化を伝える豪華絢爛な廟建築として国宝に指定されていた。三殿ともに戦災で焼失し、昭和に再建された。	仙台市 瑞鳳殿
⑱	ようとくいんおたまや 陽徳院霊屋	国重文	三代綱宗の建立による政宗夫人愛姫の霊屋。規模は小さいが黒漆塗、極彩色、飾金具により、政宗の瑞鳳殿に類する豪華さと優美さを誇る。	松島町 瑞巖寺
⑲	えんつういんおたまや 圓通院霊屋	国重文	二代忠宗の二男光宗の霊屋。内部の厨子に華麗な彩色模様が施され、政宗好み引き継がれている。	松島町 圓通院

⑳	しおがまじんじや 鹽竈神社	国重文	政宗以降伊達家の篤い崇敬を受け、歴代藩主が神社の「大神主」として祭事を司った。現社殿は四代綱村が元禄8年(1695)に着工し、五代吉村の宝永元年(1704)に完成した。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
㉑	せんだいはんれきだいはんしゅしょうぐそく 仙台藩歴代藩主所用具足	市有形 (工芸品)	政宗に始まる五枚胴具足を歴代藩主や家臣も踏襲し、政宗の文化が藩内に広く受け継がれている。	仙台市 仙台市博物館
㉒	ちやしやく せんだいはんれきだいはんしゅさく 茶杓 仙台藩歴代藩主作	市有形 (工芸品)	歴代藩主たちが茶道に深い関心を示したことがわかり、茶道が政宗以後、歴代藩主に受け継がれていったことを表す。	仙台市 仙台市博物館
㉓	しおがまじんじやれきだいはんしゅほうのう た ち 鹽竈神社歴代藩主奉納太刀	県有形 (工芸品)	藩主による鹽竈神社への太刀奉納は慣例で、治世の節目に行われた。いずれも華麗な糸巻太刀拵で、作刀は藩お抱えの刀工が行った。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
51	しょうがろう 勝画楼	市有形 (建造物)	仙台藩五代藩主伊達吉村が塩竈来訪時に使用した、懸造風の眺望を重視した書院建築です。歴代藩主が鹽竈神社参拝時に御休息所としても使用したもので、政宗が育んだ“伊達”な文化の壮麗さが、歴代藩主に継承されていた事を顕著に示すものです。	塩竈市
・ 全国への広がり				
㉔	かんらんてい しょうへきが 観瀾亭及び障壁画	国重文 県有形 (建造物)	歌枕松島を眺望する地に、藩主が宿泊、休憩する御仮屋の御殿として建てられたもの。襖の濃絵の障壁画は桃山時代の特徴を良く表している。	松島町 松島町
㉕	おくのほそ道の風景地 つゝじが岡及び てんじん みやしろ 天神の御社	国名勝	古くから歌枕に詠まれた名所で、松尾芭蕉も「おくのほそ道」の中で、訪れたことを記し、その後多くの人々が訪れるようになった。	仙台市 仙台市
㉖	おくのほそ道の風景地 き した やくしどう 木の下及び薬師堂	国名勝	古くから歌枕に詠まれた名所で、松尾芭蕉も「おくのほそ道」の中で、訪れたことを記している。	仙台市 仙台市
㉗	たがじょうあとつげたりてらあと 多賀城跡 附 寺跡	国特別史跡	多賀城は古代律令国家が造営した陸奥国府。平安時代に都の貴族たちは、この地を「みちのく」の名であこがれ、国府の官人だけでなく、幾人もの歌人が歌を詠んでいる。	多賀城市 多賀城市
㉘	たがじょう ひ 多賀城碑	国重文	陸奥国府、多賀城の修造を記した奈良時代の石碑で、二代忠宗の頃に発見された。水戸藩の徳川光圀の助言もあり、四代綱村が覆屋を建て保護した。	多賀城市 多賀城市
㉙	おくのほそ道の風景地 つぼのいしがみ いし 壺 碑 (つぼの石ぶみ)	国名勝	「陸奥のおくゆかしくぞおもほゆる壺の碑外の浜風」(西行)に代表されるように、遠くみちのくにある歌枕として、多くの歌に詠まれている。芭蕉の「おくのほそ道」の旅の中で紹介して、さらに広く知られることとなる。	多賀城市 多賀城市
㉚	おくのほそ道の風景地 すえ まつやま 末の松山	国名勝	「ちぎりきな かたみにそでを し ぼりつつ すゑの松山 なみこさじ とは」(清原元輔)など、多くの歌に詠まれ、歌枕の地として有名。	多賀城市 多賀城市

③①	おくのほそ道の風景地 おきのい 興井	国名勝	「わが袖は しほひにみえぬ おきの石の 人こそしらね かわくまぞなき」(二条院讃岐)など多くの歌に詠まれ、歌枕の地として有名。	多賀城市 多賀城市
③②	おくのほそ道の風景地 まがき しま 籬が島	国名勝	「わが背子を 都にやりて 塩竈のまがきの島の まつぞ恋しき」(よみ人しらず)など多くの歌に詠まれ歌枕の地として有名。	塩竈市 志波彦神社・ 鹽竈神社
③③	おしま 雄島	国特別名勝	「みせばやな 雄島のあまの 袖だにも 濡れにぞぬれし 色はかはらず」など多くの歌に詠まれた歌枕の地として有名。	松島町 松島町・瑞巖寺
③④	まつしま 松島	国特別名勝	平安時代以来、みちのくの歌枕として多くの歌に詠まれている。芭蕉が「おくのほそ道」の旅の中で紹介して以来、全国にその名が広まり、多くの文人が訪れるようになった。	塩竈市 松島町 塩竈市・松島町
③⑤	とみやまかんのんどう ぼんしょう 富山観音堂と梵鐘	国特別名勝 県有形 (工芸品)	政宗の長女五郎八姫が改修させた彩色豊かな建造物と寄進した梵鐘。芭蕉に同行した曾良も「曾良旅日記」の中で眺望の地として記している。	松島町 大仰寺
・庶民への広がり				
③⑥	おおさきはちまんぐう のうかぐら 大崎八幡宮の能神楽	県無形民俗	大崎地方から仙台北城下への移転に伴い、その頃、大崎領内で行われていた神楽を移伝したとされる。藩の扶持を受け、社人が演じた由緒をもつ。	仙台市 大崎八幡宮
③⑦	あきう たうえおどり 秋保の田植踊	国無形民俗・ユネスコ無形文化遺産	正月、仙台北城下で門付けしていたとされる3組(蕪・蟹・海老の田植組)のうち、蕪田植との関連が想定され、城下から庶民への広がりを表す。	仙台市 秋保の田植踊保存会(湯元・長袋・馬場の田植踊保存会)
③⑧	おおさわ たうえおどり 大沢の田植踊	県無形民俗	藩主から賞賛の言葉を賜り、早乙女が着用する振袖の裾に伊達の家紋にちなんだ竹に雀文の使用が許されたという伝承をもつ。	仙台市 大沢田植踊保存会
③⑨	かわまえしおどり けんばい 川前鹿踊・剣舞	県無形民俗	江戸時代中期までに八幡町から伝えられたという。藩から鹿踊の幌幕に絹布の使用を特に認められたという。	仙台市 川前の鹿踊・剣舞保存会
④⑩	ふくおか ししおどり けんばい 福岡の鹿踊・剣舞	県無形民俗	江戸時代前期に、仙台北城下八幡町で鹿踊・剣舞を管理していた大崎八幡宮別当寺から旧福岡村に伝えられた。	仙台市 福岡の鹿踊・剣舞保存会
④⑪	おおさきはちまんぐう まつたきまつり 大崎八幡宮の松焚祭 (どんと祭)	市無形民俗	江戸時代の仙台北城下では、正月の松飾りを大崎八幡宮で焼く「松焚祭」が行われていた。この行事が近代以降に「どんと祭」の名称と共に普及し、宮城の代表的な小正月行事となった。	仙台市 大崎八幡宮
④⑫	せんだいたなばた 仙台七夕	未指定	旧7月7日の節句だが、七代重村の頃は6日に飾り、7日朝に流した。明治以降、紙衣・巾着等の独特の飾りが定着するなど飾りが豪華になった。	仙台市 仙台七夕まつり協賛会
④⑬	しおがまじんじゃ ほ てまつり はなまつり 鹽竈神社帆手祭・花祭	未指定	藩の許可を得て始められた氏子の祭り、鳥居までは鹽竈神社、その外側は氏子が全責任を負う。重さ1トンの神輿は荒れ神輿として知られる。	塩竈市 志波彦神社・鹽竈神社、祭典委員会

④④	せんだい あおば 仙台・青葉まつり	未指定	二代忠宗が建立した東照宮の仙台祭の系譜を引き、多くの山車が仙台市内を練る。現在は政宗を祭る青葉神社例祭に合わせ、市民が実施する。	仙台市 青葉神社・仙台青葉まつり協賛会
④⑤	せんだいおふで 仙台御筆	県伝統工芸	筆製作は藩内の需要と産業振興を目的に政宗が大坂から職人を招いたのが始まり。品質の高い筆として知られる。	仙台市 大友毛筆店
④⑥	つつみやき 堤焼	県伝統工芸	仙台北城下の北に位置する杉山台で、茶道に通じた藩主の器等も製作された。後に堤町で甕や鉢などの、庶民の生活雑器も生産した。	仙台市 堤焼乾馬窯
④⑦	つつみにんぎょう 堤人形	県伝統工芸	四代綱村の頃、江戸の陶工を招いて堤町で製作され、歌舞伎の名場面を象った人形が特徴で、優美な彩色、洗練された形で、土人形の最高峰といわれる。	仙台市 芳賀堤人形製造所・つつみのおひなっこや
④⑧	せんだいひら 仙台平	国無形	堅牢で皺が付きにくく、藩主の贈答品にも使われた。今でも極上の袴の代名詞として晴れの舞台で着用される。	仙台市 仙台平
④⑨	せんだいはりこ 仙台張子	県伝統工芸	仙台北城下で作られ、主流のダルマは目入りで青色、宝船や福神を腹部に立体的に表現したもので、絢爛たる縁起物として現代でも親しまれている。	仙台市 仙台張子の会
⑤⑩	せんだいたんす 仙台簞笥	国伝統工芸	江戸末期に藩お抱え大工等が製作を始めた。黒漆塗りの金具で装飾された華麗な簞笥。外国人にも好評で、明治から大正期には輸出もされた。	仙台市 仙台簞笥協同組合

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

①黒漆五枚胴具足
兜・小具足付



②仙台藩歴代藩主所用陣羽織



③仙台藩歴代藩主墓所出土品



⑤仙台城跡



④木造伊達政宗倚像



⑥仙台城及び江戸上屋敷主要建物絵姿図



⑦仙台城本丸大広間障壁画鳳凰図



⑧仙台城・若林城に関わる障壁画



⑨瑞巖寺五大堂



⑩大崎八幡宮



⑪陸奥国分寺薬師堂



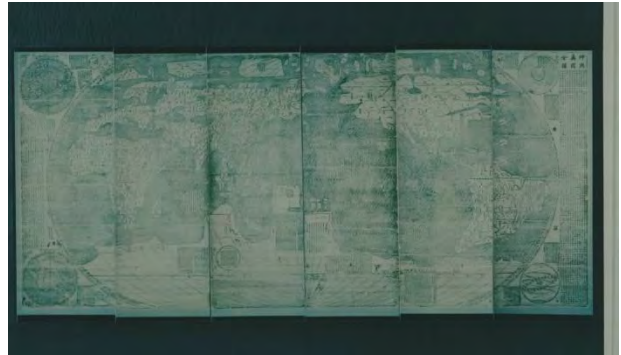
⑫瑞巖寺(本堂・庫裏及び廊下・障壁画)



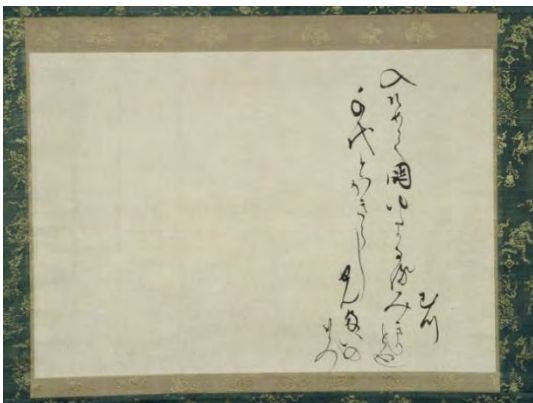
⑬慶長遣欧使節関係資料



⑭坤輿万国全図



⑮伊達政宗和歌詠草「入そめて」



⑯東照宮



⑰経ヶ峯伊達家墓所
瑞鳳殿・感仙殿・善応殿



⑱陽徳院霊屋



①⑨圓通院靈屋



②⑩鹽竈神社



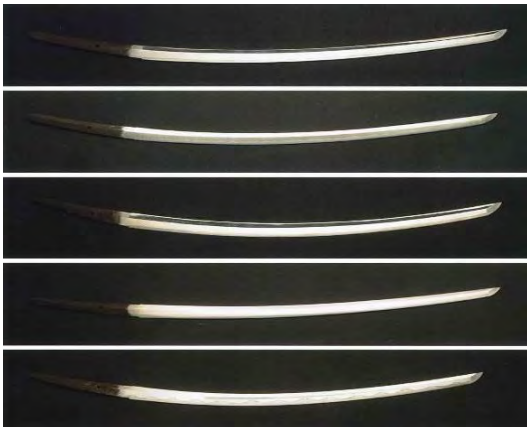
②⑪仙台藩歴代藩主所用具足



②⑫茶杓 仙台藩歴代藩主作



②⑬鹽竈神社歴代藩主奉納太刀



②⑭ 観瀾亭及び障壁画



㊥ おくのほそ道の風景地
つゝじが岡及び天神の御社



㊦ おくのほそ道の風景地
木の下及び薬師堂



㊧ 多賀城跡附寺跡



㊨ 多賀城碑



㊩ おくのほそ道の風景地
壺碑 (つぼの石ぶみ)



㊪ おくのほそ道の風景地
末の松山



③① おくのほそ道の風景地 興井



③② おくのほそ道の風景地 籬が島



③③ 雄島



③④ 松島



③⑤ 富山観音堂と梵鐘



③⑥ 大崎八幡宮の能神楽



③⑦秋保の田植踊



③⑧大沢の田植踊



③⑨川前鹿踊・剣舞



④⑩福岡の鹿踊・剣舞



④⑪大崎八幡宮の松焚祭



④⑫仙台七夕



④③ 鹽竈神社帆手祭・花祭



④④ 仙台
・青葉まつり



④⑤ 仙台御筆



④⑥ 堤焼



④⑦ 堤人形



④⑧ 仙台平



㊤仙台張子



㊦仙台簞笥



51 勝画楼



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
19	政宗が育んだ“伊達”な文化

(1) 将来像 (ビジョン)

＜将来像＞ “DATE” といえば、世界はみやぎの日本遺産だと分かる**－世界に誇れる歴史文化の豊かな地域－**

宮城県は初代仙台藩主・伊達政宗以来、江戸時代を通じて仙台藩伊達家が治め、今もゆかりの文化や文化財が多くある。「伊達」や「政宗」という言葉が広くネーミングに用いられるなど、認定地域の中にも溶け込んでいる。

この仙台藩伊達家に関わる文化は、伝統を重んじつつも豪華絢爛かつ斬新な「伊達文化」として、訴求力のある地域ブランドである。日本遺産認定地域は、そうした伊達文化が体験できるエリアで観光地としての歴史も長く、域内交通や観光インフラが整備されている。また、認定地域は仙台駅や仙台国際空港から1時間未満で到着し、首都圏や関西圏から概ね2時間で到着できるアクセス性の良さがある。

2016年の日本遺産認定は、幅広い文化財群の魅力をストーリーの中で掘り起し、また磨き上げる効果をもたらした。また、シビックプライドの醸成にも大きく寄与し、認定地域が地域活性化を推進する上で不可欠となっている。

認定地域の行政計画では、みやぎ観光創造県民条例（2011.3.9）に基づく第4期みやぎ観光戦略プラン（2018.3）における戦略プロジェクトの取組みで日本遺産を位置づけ、毎年県議会に報告している。また、宮城県文化財保存活用大綱（2021.3）のほか、松島町歴史文化基本構想（2018.3）、多賀城市歴史的風致維持向上計画（第2期：2021.3）などの計画で、文化財保護やまちづくりで日本遺産の活用を提示している。史跡仙台城跡整備基本計画（2021.3）など個別の計画でも同様に記載している。これらの計画における位置づけを踏まえて、およそ20～30年先にある認定地域の将来の姿として、以下3項目を目指していく。

【将来の姿1】

関係機関・民間団体・地域住民が連携して世界に発信を行うことで、伊達な文化が“DATE”として宮城・仙台を指す国際的な言葉となり、訪れる旅行客には開かれた地域として、伊達な文化が感動できる仕組み・体制になっている。

【将来の姿2】

日本遺産を通じて幅広い構成文化財や地域にも人が訪れ、伝統工芸品など地場産業の持続、飲食・宿泊施設の増加といった裾野が拡大することで、地域全体に恩恵が行き渡る。

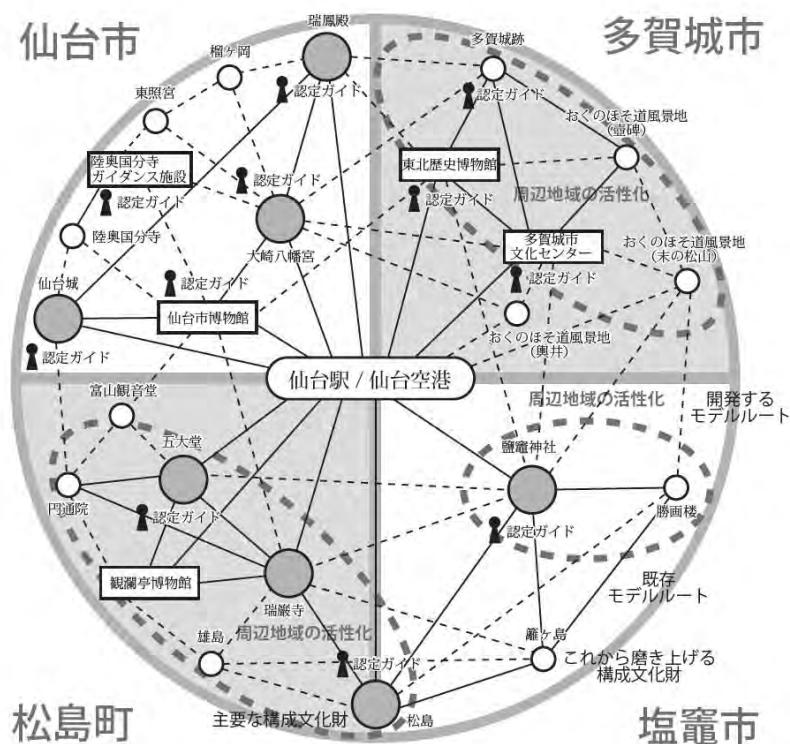
【将来の姿3】

地域住民が地域の歴史文化に対して誇りと愛着をもち、観光地としてのホスピタリティと、文化財保護意識の向上、寄付やボランティア等の社会貢献活動に繋がっている。

この将来像の実現に向け、認定地域は観光による経済効果を地域全体に行き届かせるためのストーリーを軸とした面的周遊ネットワークを形成することが不可欠である（下図）。

つまり、交通ハブの仙台駅・仙台空港を起点として、拠点となる構成文化財を中心に、それらをストーリーのテーマごとに結ぶ周遊ルートを設定する。ルート上にはストーリーを紹介するガイダンス施設やガイドが配置し、解説板等で周辺にある構成文化財へ誘導する。このことで、観光客にストーリーを紹介する仕組みが生まれ、また観光客の多様なニーズに応えつつ認定地域内に経済効果を分散させることを目指す。

観光客は、認定地域の多様なコンテンツが提示されることによって再訪問の意欲が沸き、特定のエリアの混雑を緩和して、ゆとりをもった体験ができるなど満足度の向上にも繋がる。



（２）地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：日本遺産のストーリーを体験した来訪者の数

年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	5,150 千人	5,135 千人	2,962 千人	3,110 千人	3,265 千人	3,428 千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿・鹽竈神社・多賀城跡・松島）の来訪者数で、観光統計値に基づき 2021 年度より毎年 5%増加を設定。					

目標①：地域住民が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－B：日本遺産のストーリーについて理解・関心を深めた人の割合						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	68%	70%	70%	75%	80%	85%
目標値の設定の考え方 及び把握方法	地域の小中学生や保護者を対象とした日本遺産見学ツアー参加者アンケートにおける理解したと答える人の割合が、2021 年度より毎年 5%増加を設定。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域住民が日本遺産のストーリーを理解している割合						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	55%	55%	58%	61%	64%	67%
目標値の設定の考え方 及び把握方法	行政の主催する行事等で実施する認定地域の住民を対象とした日本遺産認知度・理解度アンケート調査で、理解したと答える人の割合が、2021 年度より毎年 3%増加を設定。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：伝統工芸技術体験プログラムの参加者・関連商品の購入者数（個）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	—	—	—	500	1000	1500
目標値の設定の考え方 及び把握方法	事業番号 5－A②で造成した自宅などで気軽に国の伝統的工芸品仙台筆笥の魅力に触れてもらうため、オンライン体験プログラムの購入者数を設定。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産構成文化財が活用可能な状態にある割合（%）						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	80	80	80	90	90	90
目標値の設定の考え方 及び把握方法	構成文化財 51 件の活用可能な状態にある状態を常時 90%に設定する。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の外国人観光客数						
年度	実績			目標		
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
数値	81 千人	17 千人	15 千人	16 千人	17 千人	18 千人
目標値の設定の考え方 及び把握方法	地域内の認定外国人案内所の外国人客利用者が 2021 年度県観光統計値に対して、毎年の 5%の増加を設定。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

＜将来像を踏まえた取り組みの方向性＞

認定地域の将来の姿 1～3 を実現するために、計画期間（2022～2024 年度）においては、以下①～⑤の取り組みを重点的に行う。

① 組織整備（主なターゲット：行政・DMO・関係団体・民間企業・地域住民等）

【将来の姿 1】実現のため、認定地域の総合マネジメントを担うプロジェクトリーダー、情報発信や地域的なマネジメントを担う地域プロデューサー、各地域でガイドや地域おこしを行う地域プレイヤーを設定する。実行委員会を中心として、地域の人材・団体と連携し、組織体制確立と役割明確化により各自の持ち味を活かした推進体制をつくる。

② 戦略立案（主なターゲット：民間企業・訪日外国人旅行者・国内旅行者等）

【将来の姿 1】及び【将来の姿 2】【将来の姿 3】の実現のため、訪日外国人旅行者・国内旅行者の増加とリピーターの確保、回遊性を高めること、認定地域での直接的な消費拡大を目的として、プロジェクトリーダーを中心に実行委員会事務局が認定地域内の情報収集、課題把握を行い、地域プロデューサーと課題解決の方向性を検討する。

③ 人材育成（主なターゲット：ガイド団体・地域住民等）

【将来の姿 1】及び【将来の姿 3】実現のため、地元ガイド対象講座等を通じて、訪問者にストーリーを伝える仕組みをつくり、認定地域の受入体制充実化を目指す。また、展示会や講演、各団体への研修によって、地域住民の日本遺産ストーリーと構成文化財に対する理解を深める。シビックプライド醸成を経て受入体制の充実を目指す。

④ 整備（主なターゲット：文化財所有者・訪日外国人旅行者・国内旅行者等）

【将来の姿 1】実現のため、文化財部局が構成文化財美装化や修理への支援を行うほか、観光部局や所有者、各民間企業がストーリーの多言語解説や便益施設等周辺整備に取組み、日本遺産を訪れたあらゆる人が感動できることを目指す。

⑤ 観光事業化（主なターゲット：民間企業等）

【将来の姿 2】及び【将来の姿 3】実現のため、計画期間で伝統工芸品の製造者や民間企業等と連携した商品開発・展示会、ツアー開発とマーケティングの強化によって地域資源としての付加価値拡大を図り、旅行者の回遊性向上やリピーター増加を目指す。

⑥ 普及啓発（主なターゲット：認定地域の小中学生等）

【将来の姿 2】及び【将来の姿 3】実現のため、実行委員会が中心となって小中学生向け文化財見学ツアー開催や出前授業等を通じて次世代に日本遺産のストーリーと文化財の価値を伝え、中長期的な文化財保護体制の確立を目指す。

⑦ 情報収集・発信（主なターゲット：訪日外国人旅行者・国内旅行者・地域住民等）

【将来の姿 1】及び【将来の姿 2】実現のため、行政・民間企業・地域住民が連携して、

海外・国内に向けた“DATE”に関する広報と反応等の収集活動（県海外事務所等の発信、SNS・公式HP・広報誌等の発信、フォロワーや発信数の多いSNSへコンテンツの提供等）、旅行会社等への働きかけに取組み、訪日外国人観光客増加など交流人口拡大を目指す。

（４）実施体制

日本遺産による地域活性化は、以下の実行委員会を中心とする実施体制により取り組む。

実行委員会名称：「“伊達な文化”」魅力発信推進事業実行委員会

＜構成団体＞

【宮城県】総務部広報課、経済商工観光部観光政策課・産業振興課・富県宮城推進室・観光プロモーション推進室、教育庁総務課・文化財課（事務局）

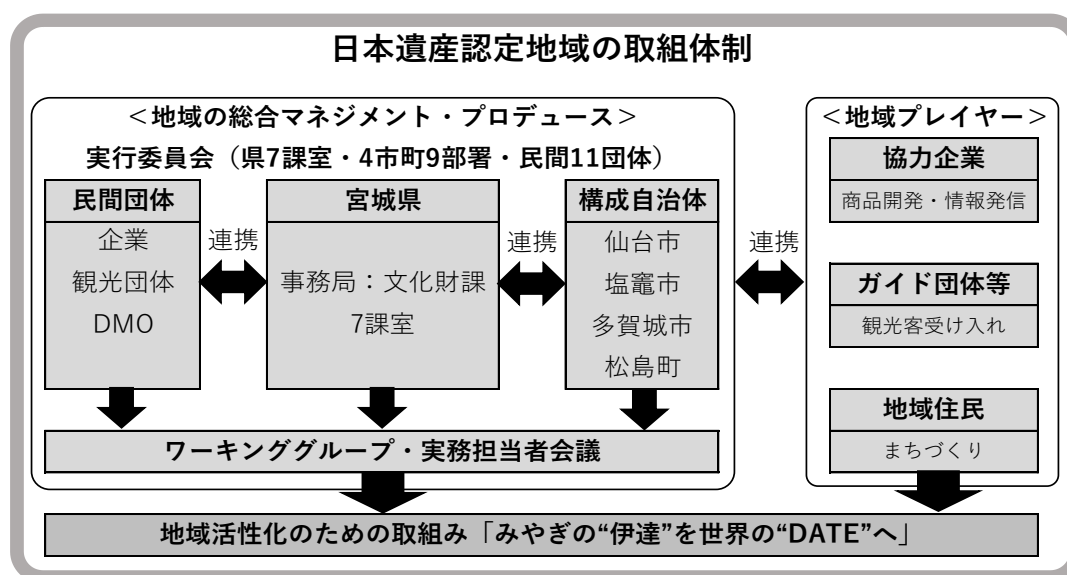
【仙台市】文化観光局観光課、教育委員会文化財課

【塩竈市】産業観光部観光交流課、教育委員会生涯学習課

【多賀城市】市民経済部商工観光課・建設部都市計画課、教育委員会文化財課

【松島町】産業観光課、教育課

【民間企業・団体】（一社）東北観光推進機構（広域連携DMO）、宮城県観光誘致協議会、（公社）宮城県観光連盟、（公財）仙台観光国際協会、塩竈市観光物産協会、多賀城市観光協会、（一社）松島観光協会
（株）東日本旅客鉄道株式会社仙台支社営業部観光推進室
（株）仙台国際空港株式会社、河北新報社事業局事業部
（株）インアウトバウンド仙台・松島（地域連携DMO）



実行委員会を官民協働の基盤として位置づけ、商工観光分野、教育分野の各構成団体による全体会で取組みの方向性と目標の設定を行う。この下には、ワーキンググループとそれらを繋ぐ実務担当者会議を設置する。

実務担当者会議は、行政関係者やグループリーダーの意見交換会の場として年間4～5回程度開催する。今後はこの会議を深化させ、各構成団体から選出された実務担当者を事業プロジェクトチームとして位置づけ、戦略立案と総括するプロジェクトリーダーを選出

し、情報発信、人材育成または体験プログラム造成、観光を主眼とした商工振興（地域活性）にかかる諸事業を実施する。

<民間企業・団体の役割>

（公社）宮城県観光連盟、（公財）仙台観光国際協会	主に教育旅行誘致のため日本遺産を教育旅行ガイドブック等で紹介し、各団体事務局が受入窓口となっている。
（株）東日本旅客鉄道株式会社仙台支社営業部観光推進室、（株）仙台国際空港株式会社	認定地域へのアクセスや周遊で不可欠な交通インフラを担うほか日本遺産認定地域の玄関口となる仙台駅、仙台国際空港、首都圏、関西圏でのPR協力を行っている。
一社）東北観光推進機構（広域連携DMO）、宮城県観光誘致協議会、河北新報社事業局事業部	国内外でのPRや誘致活動、メディアを通じた市民等への紹介活動に取り組む。
塩竈市観光物産協会、多賀城市観光協会、（一社）松島観光協会	物販施設の運営、各旅行客への対応などに取り組む。
（株）インアウトバウンド仙台・松島（地域連携DMO）	認定地域内での着地型周遊観光の整備、ツアー企画等の実施、地元企業との関係性構築や地域の観光地開発に取り組む。

[人材育成・確保の方針]

地域内の中長期的な人材確保のため、人材育成では県立松島高等学校観光科や宮城学院女子大学等と企画や事業実施面で連携を進める。また小中学校、生涯学習施設での出前講座を実施する。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

実行委員会は、認定後７年目以降、第２期「“伊達”な文化」魅力発信推進基本計画を主体的に策定することによって、構成団体で地域活性化の目標と方向性を再確認・共有し、将来に向けた取組みの検証を行う。また、各行政計画に位置づけることで、継続的な事業として行政的な担保を図る。

長期的には、公的資金の依存度を下げて民間企業等の持続的な協力による運営とするため、日本遺産の地域ブランド力の向上のための方向性を示すとともに、実行委員会に協力することで企業がステータスを得られるように、法人パートナーの組織化と、企業の協力拡大とブランド管理にむけた規則の整備等を推進する。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

少子高齢化・過疎化の中で文化財保護の担い手が不足し地域の文化財が放置される現状は、これから加速化していくことが想定される。

日本遺産は構成文化財をストーリーで繋ぐことで、これまであまり知られていなかった文化財も観光振興を軸とした地域活性化の中心に位置づけるもので、日本遺産による認知度向上が文化財保護に還元されるため、以下①～④の取り組みを重点的に行う。

① 日本遺産ブランド・知名度を活用した地域内における価値の創出

第一に地域で大切にされることが必要であることから、日本遺産構成文化財としての研修、市民講座、地元見学会など地域内での構成文化財の価値の再発見・創出に取り組む。

② 地域における文化財周辺環境改善行動の喚起

地域内での価値の再発見と創出のため、SNS など若者もアクセスしやすい情報で参加者を募集し、仙台城石垣クリーン大作戦などこれまでの取り組みも土台として、地域内で構成文化財の保護と日本遺産を通じたまちづくり機運の醸成を行う。

③ 旅行者回遊性の向上

構成文化財を周遊するモデルルートの紹介によって旅行者の訪問を拡大し、地域が誇りを持てるようにする。

④ 旅行者など訪問者による寄付等を受け入れる環境の整備

訪問者が構成文化財を訪れた際、文化財や周辺環境、地域の取り組みに感動する体験を、文化財保護に対する寄付行為など具体的なアクションとむすび付けるため、ふるさと納税、クラウドファンディング、企業の社会貢献活動などを受け入れる環境整備を行う。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	「“伊達”な文化」魅力発信推進事業実行委員会の組織強化		
概要	実行委員会を認定地域内の構成自治体・民間企業による官民協働の基盤として位置づけ、組織の拡大と機能強化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	実行委員会加入・協力団体の拡大（法人パートナー拡大）	実行委員会加入や、各事業の直接的支援や寄付、PR 協力等で連携する認定地域内の民間企業等法人パートナー拡大を進める。	宮城県
②	実行委員会の組織整備・運営 （計画に基づく事業の企画・実施を行う組織の整備、PDCAサイクルをまわす仕組みの整備）	①法人パートナー拡大により関係者を拡大した上で、実行委員会には、中心メンバーで事業の方向性を検討するワーキンググループと、行政関係者やグループリーダーで具体的な進捗の意見交換と目標値確認を行う実務担当者会議を置き、年間4～5回程度開催する。また、実務担当者会議を各構成団体の事業プロジェクトチームとして位置づけ、戦略立案するプロジェクトリーダーを選出し、諸事業を効果的に実施する。	宮城県
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	日本遺産の取組みに協力する法人パートナー数		32 団体
2020 年			37 団体
2021 年			42 団体
2022 年	日本遺産の取組みに協力する法人パートナー数		47 団体
2023 年	日本遺産の取組みに協力する法人パートナー数		52 団体
2024 年	日本遺産の取組みに協力する法人パートナー数		57 団体
事業費	2022 年：68 千円 2023 年：68 千円 2024 年：68 千円		
継続に向けた事業設計	短期的には事務局事務を固定して、認定地域内の民間企業等との連絡窓口を明確化し、加入や連携を希望する企業と信頼関係を構築する。 長期的には認定地域内の約200法人がパートナーとなり、財政的協力が拡大するよう、地域ブランドとしての日本遺産の魅力拡大にむけて、ブランド力向上のための方向性の検討（事業番号2-A）を行うとともに、加入・協力することで企業がステータスを得られるために、実行委員会構成団体ではない法人パートナーを協力団体として組織化し、ブランド管理にむけた規則の整備等を推進する。		

(事業番号 1-B)

事業名		「“伊達”な文化」地域プレイヤー組織化事業	
概要		実行委員会と連携する地域プレイヤーとの関係構築に取組み、また地域プレイヤーの組織化も進める。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産を保存する地域プレイヤーの育成	市民が日本遺産構成文化財を自ら守り、後世に伝えていく地域プレイヤーとなるため、行政と認定ガイドが所属するガイド団体が協力し、石垣清掃（仙台城石垣クリーン大作戦）を継続的に開催する。このイベントにより、市民が地域プレイヤーとして参加するきっかけを提供する。	仙台市
②	日本遺産を紹介する地域プレイヤーの組織化	認定地域内の観光ガイド団体が地域プレイヤーとして相互の連携を目指して、仙台市観光ボランティアガイドネットワークで年2回会議を開催、『伊達な名所巡り』の内容説明を行う。また、これに併せて会員向け研修会を開催し、おもてなし力向上や、外部講師を招き研修講座を行う。	仙台観光国際協会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	参加者のうち地域プレイヤーとして協力する人数		17 人
2020 年			中止のため測定不能
2021 年			30 人
2022 年	参加者のうち地域プレイヤーとして協力する人数		35 人
2023 年	参加者のうち地域プレイヤーとして協力する人数		40 人
2024 年	参加者のうち地域プレイヤーとして協力する人数		45 人
事業費		2022 年：1500 千円 2023 年：1500 千円 2024 年：1500 千円	
継続に向けた事業設計		①はガイド間の知識・スキル共有と、今後の連携体制の構築を主眼として、②は市民の環境改善行動喚起と文化財保護双方にとって、長期的な地域住民の協力拡大を目指して恒常的に行うこととしている。	

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
事業名	第2期「“伊達”な文化」魅力発信推進事業推進計画の策定		
概要	日本遺産事業自走化が始まった令和元年度にワーキンググループを立ち上げて、認定地域が推進する取組みの方向性・内容を第1期計画としてまとめている。この計画を新たな地域活性化計画に基づいて見直したうえで、各種行政計画への反映を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	第2期「“伊達”な文化」魅力発信推進事業推進計画の策定	これまでの日本遺産事業の実績と効果を、5-A①、7-A①で調査・フィードバックしたうえで、実行委員会のワーキンググループ（1-A）により、新型コロナ後の認定地域が日本遺産を地域ブランドとして活用し、活性化するために取組むべき内容を第2期計画としてまとめる。	宮城県ほか全構成団体
②	文化財保存活用地域計画・文化財保存活用計画への反映	①の第2期計画内容を踏まえて、各観光振興計画や日本遺産構成文化財保存活用計画等で、具体的な方策等を示す。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	行政計画への位置付け数（件）		2
2020年			4
2021年			5
2022年	策定の為のワーキンググループ開催数（回）		4
2023年	策定の為のワーキンググループ開催数（回）		4
2024年	行政計画への位置付け数（件）		7
事業費	2022年：90千円 2023年：90千円 2024年：90千円		
継続に向けた事業設計	第2期計画を策定することによって、実行委員会構成員が地域活性化の目標と方向性を再確認・共有し、将来に向けた取組みの検証を行う。また、各行政計画に位置づけることで、継続的な事業として行政的な担保を図る。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	「“伊達”な文化」地域プレイヤー養成事業		
概要	認定地域内の観光・文化財ガイドや民間企業等が、地域プレイヤーとして日本遺産の紹介に必要な知識とスキルを身につけ、来訪者が満足できる環境を構築するための取組みを実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	「“伊達”な文化」出前講座 (地域プレイヤーの探索と育成)	認定地域の誰もが「“伊達”な文化」について語れるようになり、最終的には、認定地域の市民が誇りを持って地域プレイヤーとなることを目指して、「“伊達”な文化」の特徴と歴史、日本遺産について民間企業の研修等で普及を行う。	宮城県
②	日本遺産認定ガイド養成 (地域プレイヤーの探索と育成)	日本遺産ストーリーを軸とした地域の魅力を発信していく地域プレイヤーを養成する。長期的には認定ガイド個々人が日本遺産の魅力の一つになることを目指す。講座内容は日本遺産や地域の歴史文化に限らず、産業などについて総合的に把握し、地域の代表として来訪者に接するための知識・スキル等の習得を主眼に設定する。受講者には受講回数で色分けした認定バッジを配り、日本遺産及び地域の代表としての自覚はもとより、来訪者にとっての目印となるようにする。事業には日本遺産事業が用途目的のふるさと納税を一部充当する。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
③	日本遺産教育旅行誘致	②養成講座のアウトプットとして、教育旅行で認定ガイドによる日本遺産ストーリーの紹介を行い、ガイド団体が次世代へのストーリーを伝える活動を通じて収益に繋げる。	宮城県観光連盟、仙台観光国際協会
④	日本遺産認定ガイド活動支援	②のアウトプットとして、一般旅行者から「あの認定ガイドから話を聞きたい!」と思われる人材を発掘し、各旅行会社ツアーとのマッチングや収益事業化のサポートなど、ガイド活動の支援を行う。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)		—
2020年			—
2021年			—
2022年	認定ガイドがストーリーを紹介した回数(回)		10

2023 年	認定ガイドがストーリーを紹介した回数（回）	20
2024 年	認定ガイドがストーリーを紹介した回数（回）	20
事業費	2022 年：20 千円 2023 年：20 千円 2024 年：20 千円	
継続に向けた事業設計	事業ふるさと納税等による財源を確保して実施し、①出前講座は企業等の商品創造意欲に繋げるプログラムで日本遺産への参画を促す。また、市民向けにはガイドなど地域プレイヤーとしての活躍に繋げる紹介を行う。②認定ガイド養成講座は、連続講座で受講ごとにステップアップすることで、受講者の探究心と達成感を満たしつつ継続的に関係を構築する仕組みとする。	

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	「“伊達”な文化」認定地域“仙台”の魅力創出		
概要	認定地域・仙台市は、政令指定として交通網が発達している。したがって、この認定地域では、将来の姿 1「伊達な文化が感動できる仕組み・体制」を実現するため、修理・復元・美装化・防災機能向上の実施や展示施設・ガイダンス施設を設置、認定ガイドの配置によって、ストーリーと構成文化財の伝承と魅力を分かりやすく伝える。 あわせて、日本遺産を周遊する環境の利便性を向上させてストーリー理解度を高め、周遊の快適性を高めることでリピーター拡大に努める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	史跡仙台城跡の整備 (構成文化財整備)	歴史的な背景を踏まえた本丸跡からの眺望と、自然環境と調和した城郭らしい景観を「政宗ビュー」と表現し、その実現を整備の目標としている。仙台を象徴する観光拠点でもある史跡仙台城跡の価値について、来訪者が理解を深められるよう整備を進める。  (政宗ビュー 完成予想図)	仙台市

②	構成文化財・経ヶ峯伊達家墓所 瑞鳳殿整備 (構成文化財整備)	展示施設(実物大展示としての復元建物)を整備し、日本遺産を活用した観光拠点として更なる磨き上げを図る。なお、事業資金の一部はクラウドファンディングによる調達を予定している。	公益財団法人瑞鳳殿
③	構成文化財・大崎八幡宮災害復旧事業 構成文化財整備)	認定地域を代表し、国内外の旅行者を惹きつける大崎八幡宮の福島県沖地震による被害の復旧を行い、確実に後世に引き継ぐ。事業には、日本遺産事業を用途目的とするふるさと納税を一部充当する。	大崎八幡宮
④	アクセス・周遊環境の維持拡大	認定地域へのアクセスや周遊の中心となる仙台駅、仙台国際空港をはじめ、日本遺産ストーリーを巡る上で不可欠な交通インフラを担い、誘客の拡大と回遊性の向上を図る。	東日本旅客鉄道株式会社仙台支社営業部観光推進室、仙台国際空港株式会社
⑤	周遊環境整備(ストーリー理解促進と快適性向上)	レンタサイクル“DATE BIKE(ダテバイク)”やWi-Fi 設備などの充実化を進めて、ストーリーを巡る手段を旅行者に提供し、快適性の向上によってリピーター拡大を図る。	仙台市・宮城県
⑥	日本遺産認定ガイド活動支援	②のアウトプットとして、一般旅行者から「あの認定ガイドから話を聞きたい!」と思われる人材を発掘し、各旅行会社ツアーとのマッチングや収益事業化のサポートなど、ガイド活動の支援を行う。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
⑦	構成文化財・陸奥国分寺史跡指定 100 年(誘客拡大のためのイベント実施)	令和4年の全国国分寺サミットの開催をはじめ、年間をとおして陸奥国分寺跡を紹介する企画展示や市民参加型体験イベント等を開催する。	仙台市
⑧	訪日旅行者・国内旅行者誘致	広域連携 DMO とともに、ウェブサイトや SNS 等や各国での認知度向上事業を通じて海外・国内に向けて情報発信を行い、認定地域への旅行者誘致を行う。	東北観光推進機構(広域連携 DMO)、宮城県観光誘致協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2018 年	構成文化財(仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿) 来訪者数(千人)		985
2019 年			1023
2020 年			482
2022 年	構成文化財(仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿) 来訪者数(千人)		491
2023 年	構成文化財(仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿)		500

	来訪者数(千人)	
2024 年	構成文化財（仙台城跡・仙台市博物館・瑞鳳殿） 来訪者数(千人)者数	510
事業費	2022 年：80,340 千円 2023 年：60,000 千円 2024 年：130,000 千円	
継続に向けた 事業設計	日本遺産構成文化財の整備事業は、事業額の一部でクラウドファンディングによる資金獲得（②）を行う。今後もこうした認定地域外からの財源獲得の手法を拡大し、日本遺産の持続的な維持に努める。	

（事業番号 4－B）

事業名	「“伊達”な文化」認定地域“多賀城”の魅力創出		
概要	将来の姿 1「伊達な文化が感動できる仕組み・体制」を実現するため、認定地域多賀城市に所在する構成文化財の調査・整備を通じて魅力の向上を図り、その上で普及啓発、観光振興により、誇りの喚起と地域経済の活性化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財・多賀城跡調査事業（調査研究・サブストーリー抽出）	現在、未整備範囲がある多賀城跡の魅力を創出し、ストーリーに深みを持たせるため、発掘調査を行う。調査研究には、日本遺産事業を用途目的とするふるさと納税を一部充当する。	宮城県
②	構成文化財・多賀城南門等復元整備（構成文化財整備）	多賀城跡附寺跡の外郭南門を、多賀城が最も豪華だった奈良時代後半の姿且つ原寸大で復元整備する。多賀城創建 1300 年にあたる令和 6 年の完成に向け、多賀城南門の復元工事とガイダンス施設の整備を実施し、一般公開することにより文化交流拠点として有効に活用されることを目指す。事業には、復元を用途目的とするふるさと納税や寄付を一部充当する。  （完成予想図）	多賀城市
③	歴史的食文化体験学習（学校連携）	将来の担い手となる市内小学生の総合学習の一環として、構成文化財・多賀城跡の中で多賀城に係わる古代米（しろのむらさき）を栽培、食	多賀城市・多賀城市観光協会

		体験を実施する。さらに、栽培に係わった小学生のアイデアを地域活性化に繋げるため、宇宙古代米の開発としてNASAロケットにより宇宙に滞在した古代米の活用に取り組み、歴史文化と未来への発展をコラボレーションしたまちの特色づくりを行う。  (日本遺産の中で特産品の古代米づくり)	
④	構成文化財・多賀城創建1300年歴史体感プログラム造成（ストーリー整備）	特別史跡多賀城跡附寺跡をはじめとする市内にある構成文化財に付加価値を創出する取組として、古代多賀城における食再現や、復元工事中の外郭南門を活用した兵士儀礼の体験、元日朝賀の再現と参加者の古代衣装の着付体験といったストーリー体験プログラムを造成する。事業は企業版ふるさと納税や参加料等を活用する。  (古代スイーツの再現 ※イメージ)	多賀城市・宮城県・多賀城市観光協会・河北新報社・NHK仙台放送局
⑤	観光まちづくり基盤構築事業（観光基盤整備）	農業分野とも関係性を構築しながら、文化財や歴史等に付加価値を創造し、産業観光や体験型観光など経済に波及する仕組みづくりを行う目的で、具体的には、2022年以降、多賀城跡と係わりのある古代米を活用したおにぎり「多賀城浪漫」や（仮称）多賀城カレーの開発と販売を、地元企業の企画・販売網を活用して実施する。	多賀城市・多賀城市観光協会

			
		(古代米を活用した(仮称)多賀城カレー)	
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	構成文化財(多賀城跡)来訪者数(人)		34,141
2020 年			29,676
2021 年			38,485
2022 年	構成文化財(多賀城跡)来訪者数(人)		40,400
2023 年	構成文化財(多賀城跡)来訪者数(人)		42,400
2024 年	構成文化財(多賀城跡)来訪者数(人)		44,500
事業費		2022 年: 384,301 千円 2023 年: 382,180 千円 2024 年: 421,300 千円	
継続に向けた事業設計		日本遺産構成文化財の整備事業は、事業額の一部で日本遺産を用途目的としたふるさと納税の寄附金の充当(①・②)を行う。今後もこうした認定地域外からの財源獲得の手法を拡大し、日本遺産の持続的な維持に努める。また、ストーリー体験プログラム造成では、民間事業者と任意団体立ち上げ、認定地域の魅力創出に官民で取り組む。	

(事業番号 4-C)

事業名		「“伊達”な文化」認定地域“塩竈・松島”の魅力創出	
概要		構成文化財がまとまって所在する塩竈・松島地域で、世界の誰もがストーリーに感動して楽しめるようにするため、構成文化財並びに周辺環境と、観光機能強化を図る。また海上輸送路の開設によって広域に周遊する仕組みをつくる。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	ふるさとの文化財等標識設置(解説整備・サブストーリー抽出)	松島の中に位置する浦戸諸島で、「島そのものが博物館」をコンセプトに文化財解説標識を整備する。日本遺産構成文化財との関連を踏まえた誘導を行うことで、観光客の市内滞留時間を増加させる。	塩竈市
②	構成文化財・塩竈神社防災施設整備(構成文化財整備)	認定地域を代表し、国内外の旅行者を惹きつける塩竈神社で防災設備を向上させ、確実に後世に引き継ぐ。	志波彦神社 塩竈神社

③	構成文化財・勝面楼保存・活用の推進（構成文化財整備）	建物・敷地の維持管理と建物現況調査と修復工事に向けたプランニングを行いつつ、イベントや見学会実施など実施する。	塩竈市
④	観光施設維持管理事業（観光機能強化）	公衆トイレや公園などの維持管理、樹木剪定業務や観光施設修繕等を行う。	松島町
⑤	松島湾周遊体験観光地整備（交通アクセス整備）	松島湾を船で「渡る」と「歩く」をコンセプトとして、交通機関がない浦戸諸島－宮戸島間の渡船による輸送体制の構築と、周遊ツーリズムの造成を行う。	宮城県・インアウトバウンド仙台・松島（DMO）
⑥	一般旅行客誘客	国内旅行客をターゲットとして、瑞巖寺など構成文化財と座禅・数珠づくりといった体験、松島温泉、特産品を活用したグルメを組み合わせ、プロモーションを行う。また、日本三景や松島湾エリア、世界遺産・平泉と広域での誘客促進を図る。	松島町・松島観光協会
⑦	「市民おすすめ！門前町 80 分の旅」（モデルルート作成・経済効果創出）	構成文化財・鹽竈神社表参道・東参道を通り塩竈のルーツを知る基本ルート（80 分）に、市民おすすめのお店情報などを加え、鹽竈神社参拝と門前町食べ歩きを組み合わせ日本遺産のまちとしてのブランディングを図る。市民による地元の魅力発信を行うことで、シビックプライドの醸成を図るとともに、まちの回遊性を高め、観光消費につなげる。	塩竈市・塩竈市観光物産協会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2018 年	松島の年間宿泊者数（千人）		600
2019 年			569
2020 年			340
2022 年	松島の年間宿泊者数（千人）	341	
2023 年	松島の年間宿泊者数（千人）	342	
2024 年	松島の年間宿泊者数（千人）	343	
事業費	2022 年：27,700 千円 2023 年：26,585 千円 2024 年：26,585 千円		
継続に向けた事業設計	⑤では、交通インフラを担う地域の人材（渡し船の運転手等）掘り起こしと、みちのく潮風トレイルなど他の観光資源の活用も行っており、公的資金による支援終了後も持続できるように設計している。 ⑥では、構成文化財への訪問に周辺店舗への立ち寄りを加えることで、滞在時間の増加と消費拡大による地域への経済効果を生み出す。		
（事業番号 4－D）			
事業名	「“伊達”な文化」まちなか日本遺産センター事業		

概要		認定地域への来訪者や地域住民がまちなかを歩いている時、または店舗に入ったとき、何気なく日本遺産のストーリーに触れ、理解が深まるようにするため、ストーリーを紹介する日本遺産ガイダンス機能を交通施設、公共施設、店舗など地域全体が担い、日本遺産センターとなる取り組みを行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	パネル・デジタルサイネージ展示公開 (ストーリー全体像を伝える拠点づくり)	認定地域内でストーリーを伝える仕組みを確立するため、日本遺産紹介パネルとデジタルサイネージを活用し、交通機関・商業・宿泊・公共施設等で展示・放映を行う。また、これらのコンテンツの貸出により、民間施設による日本遺産の盛り上げを後押しする。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・法人サポーター
②	ストーリーを伝える多言語パンフレット整備	①と共に、日本遺産ストーリーを紹介する多言語パンフレットを交通機関・商業・宿泊・公共施設等に設置する。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・法人サポーター
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	民間施設等のコンテンツ借用数(件) (※設置期間・器材数の制限により年 8 件が平均的)		8
2020 年			8
2021 年			8
2022 年	民間施設等のコンテンツ借用数(件)		8
2023 年	民間施設等のコンテンツ借用数(件)		8
2024 年	民間施設等のコンテンツ借用数(件)		8
事業費		2022 年：384,301 千円 2023 年：382,180 千円 2024 年：421,300 千円	
継続に向けた事業設計		企業側からの協力オファー拡大に繋げることが事業継続のポイントになることから、各企業が地域ブランドとしての日本遺産の価値を認め、日本遺産を通じた利益拡大に繋がるよう、事業番号 3－A や、事業番号 5－A とパッケージ化した事業展開によりアウトプットを行う。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	「“伊達”な文化」の体験プログラム整備		
概要	来訪者が日本遺産のストーリーを体験し満足するため、伝統工芸品、飲食、宿泊それぞれの持ち味を活かした地域づくりを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	マーケティング調査と食文化のサブストーリー創出	構成文化財となっている仙台筆筥など伝統工芸について日本遺産による新たな販路拡大に繋げるため、モニター体験や Google フォーム等を活用した不特定多数を対象とする意識調査とマーケティング調査を行い、併せて東京など大都市圏や海外への販路拡大に向けた現地での紹介や反応調査を行う。また、ストーリーの中で位置づけられていない食文化に焦点をあて、サブストーリーとして関連づける調査事業を行う。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町・インアウトバウンド仙台・松島（DMO）
②	伝統的工芸技術オンライン体験プログラム造成	自宅などで気軽にストーリーの魅力に触れてもらうため、構成文化財・仙台筆筥をテーマの中心にして、参加者がオンラインで仙台筆筥協同組合の指導を受けながら、事前に自宅に送付されたミニチュア仙台筆筥組立キットを組み立て、その工芸技術を体感してオンライン体験プログラムを造成する。  （仙台筆筥制作体験キット 2021 年試行制作）	仙台筆筥協同組合
③	周遊ツーリズム・体験型観光コンテンツ造成	松島湾を中心に広域周遊促進のためのツアー造成、体験型観光コンテンツの造成（歴史を感じる松島街歩き・語り部クルーズ・漁業体験等）を行う。また、伊達な文化との関係が深い認定地域の日本酒に焦点を当て、訪日外国人を対象とした日本酒体験と構成文化財巡りのパッケージ化などを進める。	宮城県・インアウトバウンド仙台・松島（DMO）

④	ストーリー関連商品の発売（商品開発）	①～③で体験した旅行客がおみやげとして日本遺産商品を持ち帰ることで経済効果を高めるとともに、さらなる誘客拡大につなげるため、認定地域内に所在する企業の日本遺産商品開発を活性化させるため、企画・調整・広報等、販売等のサポートを行う。	宮城県・法人サポーター
⑤	周遊ツーリズム・体験型観光プロモーション	認定地域の宿泊の誘導・促進に繋げるプロモーションを海外・国内各地で行う。	宮城県・インアウトバウンド仙台・松島（DMO）
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	プログラムの参加者・関連商品の購入者数（件）		450
2020 年			80
2021 年			30
2022 年	プログラムの参加者・関連商品の購入者数（件）		500
2023 年	プログラムの参加者・関連商品の購入者数（件）		1,000
2024 年	プログラムの参加者・関連商品の購入者数（件）		1,500
事業費		2022 年：41,344 千円 2023 年：32,344 千円 2024 年：32,344 千円	
継続に向けた事業設計		体験プログラム造成の継続においては、毎回アンケート調査によって満足度を計測するとともに、参加者から意見を集め、よりよく楽しめるよう改善を積み重ねて、プログラムの磨き上げを図る。プログラムは事業番号 6－B で教育旅行に組み込むほか、事業番号 7－A で海外等へ積極的に情報発信することで活用を図る。	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名	日本遺産構成文化財探検隊☆セタシマクエスト！！！！		
概要	日本遺産への理解を深め、中長期的な文化財保護体制の確立を目指すため、小中学生向け日本遺産見学プログラムとして、域内の小中学生が地元の文化財を実際に観てストーリーを理解する機会を提供する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育体験プログラムの整備	学芸員・文化財担当職員や日本遺産認定ガイドと共に、日本遺産構成文化財を巡りながら様々なミッションを解決し、ストーリーを学習する。近年の学校教育におけるアクティブラーニングを応用して、地域の文化財や歴史について、探求型の学習により楽しく理解出来ることに配慮している。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	学習体験をした生徒が理解したと答える割合 (%)		68
2020 年			70
2021 年			70
2022 年	学習体験をした生徒が理解したと答える割合 (%)		75
2023 年	学習体験をした生徒が理解したと答える割合 (%)		80
2024 年	学習体験をした生徒が理解したと答える割合 (%)		85
事業費	2022 年：50 千円 2023 年：50 千円 2024 年：50 千円		
継続に向けた事業設計	「地元が無理なく持続できる・地域の子供はだれでも参加できる」ことを前提に、日本遺産認定ガイド（事業番号 3 - A）や地元の学芸員・文化財担当職員が、あえて参加費を低価格もしくは無料に設定し、双方の経済的負担を極力圧縮した形で地域の小中学生に日本遺産を伝える事業としている。広報活動は地域の小中学校や行政が連携して教室でのチラシ配布・行政の広報誌や SNS で行っている。既にステークホルダー間で持続的な活動として機能している。		

(事業番号 6 - B)

事業名	「“伊達”な文化」教育旅行誘致事業		
概要	教育プログラムの地域外観光客への提供を目的として、日本遺産の周遊とストーリーを体験する教育体験プログラムを整備して、教育旅行の誘致を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育体験プログラムの整備	構成文化財・松島や多賀城跡などの学習コンテンツ（副読本）創設と、体験型観光コンテンツ（歴史を感じる松島街歩き等）の造成を行う。	宮城県・インアウトバウンド 仙台・松島（D

			MO)
②	日本遺産教育旅行誘致	「宮城県教育旅行ガイドブック」における日本遺産特集の掲載と受入れのための連絡窓口の開設による教育旅行の誘致を行う。日本遺産の特集では、事業番号5－Aの①を活用し、伝統工芸や特産品など地元産業の持続的な活性化に繋がるテーマを中心とする。	宮城県観光連盟、仙台観光国際協会
③	伊達な広域観光推進協議会による教育旅行誘致	域外の学校の教育旅行を誘致するため、仙台市の「仙台城跡」「瑞鳳殿」「大崎八幡宮」、松島町の「瑞巖寺」、塩竈市の「鹽竈神社」や、日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」構成文化財である平泉町の「中尊寺金色堂」を含む学習コンテンツやモデルコースの紹介等、旅行会社や学校等へのPRを実施する。	伊達な広域観光推進協議会
④	松島町教育旅行誘致	県内外の私立学校及び公立学校の教育旅行を誘致するため、県立松島高等学校観光科や町内事業者、近隣自治体と連携した受入体制の整備、日本遺産ストーリーについて対話的で深い学びができる仕組みづくり、SDGs や探究学習をテーマとしたコンテンツ整備、旅行会社や教育機関等へのセールス活動等を実施する。	松島町・松島観光協会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		5,979
2020 年			6,230
2021 年			—
2022 年	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		6,500
2023 年	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		6,800
2024 年	認定地域の年間教育旅行宿泊人数（人）		7,100
事業費		2022 年：500 千円 2023 年：500 千円 2024 年：500 千円	
継続に向けた事業設計		行政の観光部局と教育委員会が連携し、県外の学校に向けたプロモーションを展開するほか、（7）－7 情報編集・発信の事業で発信する。また、受入体制は事業番号3－A人材育成で行うガイド養成講座のアウトプットと位置づける。	
(事業番号6－C)			
事業名		「“伊達”な文化」地域の魅力発見！事業	
概要		地域にのこる有形・無形の文化財を、日本遺産を通して地域が再発見し、地域の誇りにつなげるための取り組みを行う。	
	取組名	取組内容	実施主体

①	多賀城創建1300年歴史体感プログラム開催	事業番号4-B④で造成した特別史跡多賀城跡附寺跡に係る古代衣装の着付体験等の体験プログラムを実施することで、参加者が市内に伝わる「“伊達”な文化」の魅力を体感する。	多賀城市・宮城県・多賀城市観光協会・河北新報社・NHK 仙台放送局
②	伝統的工芸技術オンライン体験イベント開催（状況によっては対面でも実施）	事業番号5-A①で造成したオンライン体験プログラムを実施することで、気軽に「“伊達”な文化」の構成文化財の一つである国の伝統的工芸品仙台筆笥の魅力に触れる。	仙台筆笥協同組合
③	民俗芸能のつどい開催（地域を巻き込んだ継続イベント）	仙台藩とのつながりが深い民俗芸能を市民に広く認知してもらうため、「民俗芸能のつどい」を毎年1回開催する。また、公演映像を収録したDVDを図書館に配架するほか、公演ダイジェスト版を仙台市のYouTubeチャンネルで公開するなど、映像のアーカイブ化を進めるとともに、その価値や魅力の普及啓発を促進する。	仙台市
④	塩竈学まちづくり学習（地域・民間を巻き込むための普及啓発）	市民が自然や歴史・文化・まち並み景観・環境等からまちの新しい個性や魅力を創出し、まちづくりを推進するため日本遺産ストーリーを伝えるシンポジウムや講座を開催する。	塩竈市
⑤	松島まるごと学（学校教育との連携）	町内小学校の授業のとして学芸員と一緒に構成文化財・瑞巖寺や富山観音・円通院霊屋などで出前授業・現地見学を行い、ストーリーを伝える。また、歴史的建造物の中で坐禅体験を行うことを通して“伊達”な文化の一端に触れる。	松島町・小中学校
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	観客・参加者の満足度（％）		93
2020年			78
2021年			—
2022年	観客・参加者の満足度（％）		90
2023年	観客・参加者の満足度（％）		90
2024年	観客・参加者の満足度（％）		90
事業費		2022年：1070千円 2023年：1070千円 2024年：1070千円	
継続に向けた事業設計		①・②は、実行委員でもある仙台観光国際協会が主宰するウェブサイト「仙台旅先体験コレクション」で紹介し、受入体制を整備している。	

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号 7 - A)			
事業名	“DATE” の魅力を世界へ発信事業		
概要	日本遺産ストーリーの魅力とともに (7) - 5 や (7) - 6 で記載した事業を世界へ発信し、世界の認知度と誘客拡大を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	在外事務所や大使館等を通じた海外発信 (海外向け)	アジアと欧米の富裕層をターゲットとして事業 5 - A で造成した内容も含めて日本遺産伝統工芸などの新たな販路拡大と誘客拡大を図るため、伊達な文化の豪華絢爛さと食を含む体験活動、精緻な伝統工芸の紹介を主な内容として、県在外事務所や国際親善事業を通じて発信を行うほか、在外事務所から国外 SNS (微信等) での発信を行う。発信では多言語化している公式 HP、各構成文化財の紹介動画へ誘導し、ストーリーの理解と来訪手段の紹介に繋げる。	宮城県
②	グーグルマップでの位置情報追加 (海外向け)	① で発信した情報を受け止めたユーザーが現地を訪れる情報として、また国際的な日本遺産と構成文化財の認知度向上を図るため、ユーザーの多いグーグルマップで位置情報を追加する。	宮城県・仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町
③	メディアや公式ウェブサイト・印刷物を通じた情報発信 (国内向け)	国内を対象として認定地域への誘客拡大を図る目的で、各メディア・広報誌・情報紙等で伊達な文化を紹介し、認知度の向上を図る。紹介にあたっては、記事で公式 HP へ誘導し、ストーリーの理解と来訪手段の紹介に繋げる。	東北観光推進機構 (広域連携 DMO)、宮城県観光誘致協議会、
④	伊達な文化公式 SNS による魅力発信 (継続的・双方向的な発信手段整備)	①・③ の情報発信と併せて、SNS (Facebook・Instagram) による旅行者目線でのサブストーリーや、メジャーではないモデルルートといった、自分だけの旅をつくれる情報の発信を行い、認定地域全域に経済効果が波及することを目指す。①・③ の取組みに対して、④ SNS は個人で旅行する若者を主なターゲットとし、共感を得やすい綺麗な写真 (伊達な文化を表す豪華絢爛、松島の景色等) と共通するハッシュタグ、アクセス手段を表す位置情報を使用する。また投稿欄には伊達な文化公式ウェブサイトページ (近隣観光情報・グーグルマップ併設) へのリンクを貼ることで、シェア等による瞬発的な不特定多数への拡散と現地への誘客拡大を目指す。	宮城県

⑤	多言語解説板の改良 (周辺文化財情報の追加)	現地で旅行客が周辺にも魅力的な構成文化財があることに気づくことで、回遊性と滞在時間の増加につなげるため、多言語解説板に周辺の日本遺産構成文化財情報を追加する。追加手段としては、地図情報の直接貼り付け(参考写真)か、②に誘導する QR コード等を検討する。  (参考：English Heritage の周辺文化遺産案内 イギリス(イングランド))	宮城県
⑥	反応・反響調査の実施	効果的な発信を行うため、①～③の取組みによる発信を分析し改善を図る。また反応・反響のデータは(7)－2 戦略立案で活用する。	宮城県
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	公式 SNS のフォロワー数(人)		118
2020 年			268
2021 年			316
2022 年	公式 SNS のフォロワー数(人)	379	(20%の増加)
2023 年	公式 SNS のフォロワー数(人)	530	(40%の増加)
2024 年	公式 SNS のフォロワー数(人)	1060	(200%の増加)
事業費	2022 年：55 千円 2023 年：55 千円 2024 年：55 千円		
継続に向けた事業設計	認定地域への誘客拡大は県機関を継続的な海外発信手段の基軸と位置づけ、民間団体の協力拡大による多様なチャンネルの創出と、SNS による嗜好に合わせたきめ細かい情報の発信を組み合わせ、多様な対象にアプローチを図る。情報発信が現地への訪問もしくは伝統工芸品の購入に繋がるため、位置情報やアクセス手段、購買可能なサイトへの誘導を行う。また、⑤によって実際に訪れた旅行客の回遊性と滞在時間を向上させる情報の発信も行う。これらは、⑥を基盤としたマーケティング調査によって発信体制の在り方や内容についての検証を継続的に行う。		